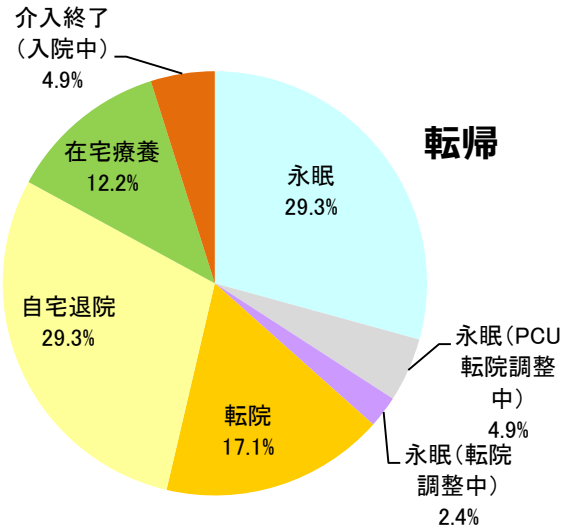
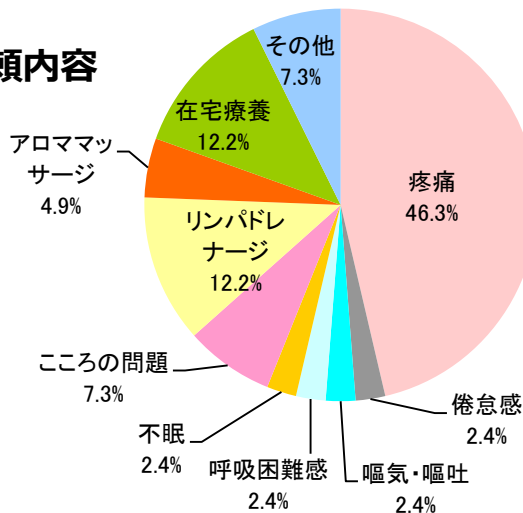


Palliative
Care
Team

2013年度上期
緩和ケアチームの活動状況と実績

- ◆ PCT申込数累計 41件
- ◆ 疼痛初期アセスメント表提出累計 253件

主な依頼内容



緩和ケアチームにおける

作業療法士 臨床心理士の活動

がんによる痛みは、身体的な痛みだけでなく、気持ちや感情にも影響します。緩和ケアチームの臨床心理士は、がんで入院・通院されている患者さんとそのご家族を対象として、ベッドサイドや面接室において、カウンセリングやイメージ療法、描画療法などを用いた支援を行っています。

カウンセリングは主に対話を通し、心身両面の苦痛を受容することで安心感を与えたり、心理的な課題を明確化し、その方らしい方向性を見つけていく後押しとなります。イメージ療法とは、セラピストが対象者の身体緊張をほぐすように導き、同時に心地良いイメージを想起させてより深いリラクゼーション反応を引き出すリラクゼーション技法のひとつで、心の安堵感だけでなく、痛みの緩和にも効果があることが実証されています。また、描画療法では、ベッドサイドでもできる描画法（貼り絵など）を取り入れ、自由に自己表現することで、発散効果や達成感を得ることを促します。

相談内容は、病気にまつわる様々な不安や喪失感・恐怖感についてが多いですが、患者さんの思い出話やその方らしいエピソードをうかがうことで、病のみに限定されない全人的な視点から、患者さんが「自分らしく」生きることをお手伝いします。

また、毎週行われるチームカンファレンスへ出席し、多職種間での患者理解が深まるよう心がけています。今後は、入院中の患者さんを毎日ケアする病棟スタッフとも連携・協働しながら、心理面のケアにあたっていきたく思います。

メンタルヘルス科・腫瘍心療科 臨床心理士

安田卓 回復リハビリテーション科 作業療法士

緩和ケアチームには、現在3名のリハビリテーション科技師が属しています。

これまで「がん」の患者さまのリハビリは、廃用による機能低下の回復・維持、ADL維持・向上が主な目的でした。しかし、緩和ケアチームのカンファレンスや活動を通して、また終末期の患者さまを担当したことで、気づかされたことがあります。それは、入院されている患者さまは、「医療を受ける人」というだけではなく「(病院で)生活する人」であり、患者さまの日々の生活には、QOL向上への援助も大切だということです。

以前担当させていただいた患者様に、お花を飾るのが大好きな方がおりました。週末外泊の際に庭で花を摘んで、病室やリハ室に飾って楽しんでおられました。病院の生活の中に趣味である「花を楽しむ」ことを取り入れたことで、ご本人にもスタッフ・ご家族にも笑顔が見られました。残念ながら病室で最期を迎えられましたが、ご家族から、病室で笑顔が見られて良かったとのお言葉もいただきました。

今後、リハビリテーション科では「がんのリハビリテーション(算定)」を開始する予定となっております。マンパワーが少なく活動が限られると思いますが、患者さまへの「QOLの向上」への援助がこれまで以上にできるようにしていきたいと思っています。

OCCUPATIONAL THERAPIST
CLINICAL PSYCHOLOGIST
吉成 手絵